



鴻巣西中通信

学校だより No.10

学校教育目標 「心豊かで たくましい 西中生」
公式ホームページ <https://konishi-j-konosu.edumap.jp/>

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和6年1月31日

恐ろしい自然災害 地震・雷・火事・親父

1月1日、能登半島周辺が大地震と津波に見舞われ、東日本大震災以来の大きな災害となりました。発生から一ヶ月となりますが、地形上及び天候等の理由から復興がなかなか進まない状況です。大切なご家族を失ったり、かろうじて助かったものの数日後「災害関連死」という悲しい結果になってしまったりした方もいらっしゃいます。職業柄、地震発生の報道を受け、真っ先に被災地の小学校や中学校の児童や生徒の状況はどうなのか気になりました。それから、忘れてならないのは、本市の児童生徒が年末年始、北陸方面に家族で帰省であったり旅行であったりして被害に遭っていないかということです。1月11日、校長会議（市教育委員会主催 市内の各小・中学校の校長が市役所に参集）において、望月教育長からは、今のところそのような情報はないとの報告がありました。幸い、本校でも、おかげさまで3学期が無事スタートし、通常と変わらない生活を送れています。

さて、被災地では、大学受験生の支援を行ったり、被災の少なかった地域の学校へ中学生の希望者が臨時的に「集団避難」したりと、様々な方策を講じ、受験や学びの機会を保障しています。物理的な環境は整いつつあっても、精神的な負担は大きいと思います。特にこの時期、進学のため入試を控えている受験生は、ただでさえ不安を抱える中、震災の恐怖や通常とは違う環境で平常心を保つのは酷いというものです。

私が上尾市の中学校で初めて3年生を担当し、進路事務を進めていよいよ受験間近の平成7年1月17日に、阪神淡路大震災が発生しました。ビルや高速道路の高架橋が崩壊して、あちらこちらから火災の黒煙が立ち上るニュース映像を目の当たりにした時は、とても現実とは思えませんでした。その後、死亡が確認された方の人数が増えていく報道を聞きながら、災害のもたらす恐怖に呆然としたものです。実は、この大震災は遠く離れた埼玉県私の担任する生徒に関係があったのです。それは、ある女子生徒の保護者が急遽転勤で4月から広島県へ転居することになり、その生徒は広島県内の私立高校を受験することになっていたのです。当初は、新幹線で往復する予定だったのですが、震災により新幹線も不通、ただ、飛行機は運航できるということなので、その生徒は一人で飛行機に乗り試験を受けに行ってきたのです。（当地では親類がお世話をしたとのことです。）その後、見事合格し、卒業後広島へ旅立って行きました。災害は被災地だけのことに限らず、ありとあらゆるところに影響を及ぼすということを実感しました。

東日本大震災当日、本市でも大きな揺れがあり市内小中学校の児童生徒は、引き取りや集団下校で余震のある中を帰宅しました。停電で信号機も消え、電車も止まったままでした。当時、教育委員会に勤務していた私は、赤見台第二小学校へ行くように指示されました。それは、北鴻巣駅の帰宅困難者を体育館に受け入れるための要員としてでした。市役所職員と、防災倉庫から毛布を運んだり避難者に配ったりしました。停電なので、ストーブも点きません。せめてもと、体育用のマットを壁際にあるだけ敷き詰めました。その日は他の職員と余震が続く真っ暗で底冷えのする体育館で過ごしました。翌朝、ようやく電気も復旧し、電車も走れるようになったので、避難者の皆さんは非常時用の食事を軽く取って北鴻巣駅に向かって体育館を後にしました。幸いなことに、お年寄りや小さな子ども連れ、妊婦の方はいらっしゃいませんでした。後日、赤見台第二小の児童の皆さんが毛布やマット等を片付けてくれたことを聞きました。本当に、いつ、どこで災害が起こるのか予測できません。

結びに、本市の休日等における震災発生時の管理職の対応マニュアルについて記します。

震度5弱以上・勤務校に参集し、災害対策本部を設置する。必要に応じて教職員へ参集するよう連絡する。

震度5強以上・勤務校に参集し、災害対策本部を設置し、教職員へ参集するよう連絡する。

ただし、職員は鴻巣市在住とは限らず、道路事情、家庭事情のため参集できない場合もありますことご承知おきください。避難場所になった時の指揮命令等は、本校担当の市役所職員が行うことになっています。

この機会に、ご家族で災害時の避難等について話し合っただければと存じます。 （校長 橋本 浩）